



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

★次号も読んでもいいかな?と思った方は、メールでご連絡下さい。

「シク教1 ぼくはシク教徒」

二十年程前になるだろうか。親しい知人から電話があった。

「大魔王さん、ぼくシク教に改宗しました」

わが輩は耳を疑った。シク教徒になるということは、頭にターバン、ヒゲや髪は伸ばし放題になることである。

「そんな姿では、勤め先をクビになるぞ」

仏教系大学に入学したものの仏教界に幻滅したU君は、宗教遍歴を始めた。その行き着いた先がシク教とは実に驚きだ。

シク教と言っても、読者諸氏にご存知ないだろう。

グル・ナーナク (1469-1539) を開祖とする新しい宗教である。二千五百年前に始まった仏教に比べれば新しいが、すでに五百年ほど経過している。

ヒンドゥー教とイスラーム教の要素を取り入れた教えである。真理は一つ、時間も形もない超越的な“力”である。誰にでもどこにでも存在している。だから人は平等である。

カーストを否定し、偶像崇拝を否定し、儀礼を否定する。

読者諸氏よ。立派な宗教ではないか。なのに、なぜ広まらないのか。

インドでも人口のわずか2% (三千万人) である。パンジャブ州に集中する地方宗教のためだろうか。欧米にも多くのシク教徒が移住している。日本にも千人程居住していると言われている。

わが輩の浅くて狭い見識によると、

「あの格好じゃ、サラリーマン生活はできないよ」

というのが主なる理由ではないだろうか。

わが輩は心配してU君に訊ねた。

「ターバンを巻くの？」

普通の格好でよいと聞いて安心した。最近ではインドでもターバンを巻かないシク教徒、つまり“隠れ教徒”が増えている。

シク教徒の姓は“シング” (獅子) で共通している。名前から判別できるか、というところでもない。ラージャスターン州にもシングという姓があるので確かとはいえない。

結局ターバンがなければ「オレはシク教徒」と言わなければ分からない。よってU君の改宗は、タ

ーバンを巻くことなく成立した。

いずれにしてもU君の場合は特異な例と言わざるをえない。

一般の人は「シク教」の名前さえも知らない。銀座でヒゲとターバンの人を見かけたら「あっ、インド人だ！」という程度の認識だ。インド通でなければ、彼の宗教は何か、教えは何かを知る人はま
ずいない。

そもそも、興味をもつ日本人なんているだろうか。

それがいたのだ。全くの驚きだ。

「大魔王よ。シク教巡礼団に同行してくれないか」

彼らの目的は、あるグルの生誕地を探し出し、そこを訪ねることであった。

自慢ではなく自慢するが、わが輩の得意とする分野である。なにしろ探索が大好きである。わが集
中力がヒート・アップした。

その生誕地とはどこか。パキスタンである。

ちょっと待てよ。インド大魔王はパキスタンに行ったことがない。

(大丈夫かい?)

巡礼者の名前をみて、さらに驚いた。

あの女優と同じ名前が記されてあった。同姓同名なのか、はたまた女優か、不安と期待と妄想
が一拳にわが輩の中に充満した。

次回、乞うご期待

【前号の訂正】

「国際アヒンサー（非暴力）の日」を制定して下さいと。今度はインドが発祥の地となる。

8月号で前述のように書きましたが、「国際アヒンサーの日」The International Day of
Non-Violence は、すでに2007年10月2日に制定されていました。うっかりしていました、という
よりすっかり忘れていました。この日は、ガンディーの誕生日です。

デリーの友人N商人より誤りを指摘されて「ああ！」と気づいた次第です。

さて、ここで言い訳ですが、わが輩が忘却していたということは、誕生日の祝典はあっても、「国
際アヒンサーの日」のインパクトがなかったということです。

というわけで、次のように訂正させていただきます。

今度スワループさんに会ったら、耳打ちしたい。

「国際アヒンサー（非暴力）の日」をもっとアピールしてよ。インドが発祥の地なのだから。